

談叢

結核會議ノ概況

(英國醫學協會結核部會グラスゴー大會)

グラスゴー市公衆衛生課衛生醫官補

マノクグリーガー述

左ノ一篇ハ昨一九二二年六月グラスゴー市ニ開催セラレタル英國醫學協會結核部會ノ印象ヲ同市公衆衛生課醫官ノ記載セルモノヨリ抄録セリ(英國結核雜誌第十六卷第四號一九二二年十月、所載)。

本結核部會ハグラスゴー市ニ於テ一九二二年六月二十六日英國醫學協會第十九年次例會ト合同開催セリ。

會長 サー、ロバート、フィリップ教授

會長挨拶、結核部會ガ一般醫學會ト合同開催セルハ從來稀ニ見タル事例ナリトノ意ヲ開會ノ辭中ニ述ベ更ニ前會合以後ニ協會ノ結核病ニ對シテ行ヒシ事項、結核發生ノ徴ガ當時ヨリ英蘭ニ比シ蘇蘭ノ方ニ少ク而シテ結核豫防方法ハ其方面ニ發達セラレタル所ナリト述ベタリ。

同會合ノ模様、劈頭リスト氏ノ「肺結核ト爾他呼吸器道疾

患トノ臨牀鑑別」ニ就キテ所見ヲ述ブ、氏ハ自家經驗ニヨル所見及ビ戰後ニ進歩セル方法等ニ就キ演述シ左ノ四項ニ就キテハ特ニ力言セリ

(一)皮膚反應、本反應ハ感染ノ第一初期ヲ發見スルニ止マリ結核性疾患ノ診斷的確徵ニアラズト信ズ。

(二)診斷補助トシテノX光線、正確ナル診斷ヲナスニハ最モ信賴スベキモノニテ極テ必要ナル設備ナリ。

(三)喀痰検査、近時喀痰中菌檢出方法ハ著シク進歩セリ、疑ハシキ患者ニ就キテハ耐忍シテ検査ヲ反復スルヲ要ス。

(四)上氣道感染、上氣道ノ感染、加答兒及ビ器械的障得ハ屢々結核症ヲ疑ハシメ診斷ヲシテ謬タシムルコトアリ、最モ注意スベシ。

其他比ハ種々巨細ニ互レル所見ヲ述ベタルガ要スルニ氏ガ患者診斷ヲ行フ場合ニハ凡ソ次ノ態度ヲ以テ臨メリト「先ヅ徴候學ヲ分析シタル後ニ第一ニ採ルベキハ肺ノ局所病竈ノ陽性徴候ヲ檢索スルニアリ、カクテ第二ニ醫師トシテトルベキ通法ヲ以テス、打診聽診及ビ其他理學的検査ハ必ず慎重ニ實行スベキナリ、斯カル際ニ余ハX光線設備ノ必要ナルコトヲバ再ビ繰返シテ述ベントス、肺部ノ檢索終ラ

バ身體他部ノ検査ヲ行フヲ要ス、次ニ心臟血管系統、上氣道等ヲ精査スベシ、カクセバ概テ正確ナル診斷ヲ決シ得ベシト。

右リスト氏講演ニ對シテ討論攻究セル諸氏ハ

リイル、カンミンズ教授　ドクトル、ペーターソン

ドクトル　クロックェット　ドクトル　ゴース

ドクトル　ヒーワット　ドクトル　ステット

ドクトル　ミューシユール　ドクトル　ブレスト

其他ノ醫家ナリキ。

次ニハドクトルエーラー氏ハ「肺結核ニアラザル結核性疾患ノ一二治療所見」ニ就キテ述ブ、氏ノ所演中ニハ結核性患者ト氣候トノ影響關係、其他外科的結核ニ對スル治療上ノ所見X光線ノ深透作用等ニ就キテ力言セリ、特別ノ講演トシテロリエ氏ハ「結核治療ニ對スル日光ノ作用」ニ就キテ長講シ更ニ活動寫眞ヲ以テ附加説明セリ。

更ニグラスゴー市公衆衛生課醫官ヘンダーソン氏(透射線主任)ノX線ニ關スル興味アル示説アリテ實際上ノ裨益ト施設上ニ多大ノ獎勵ヲ與ヘタリ。(佐藤正)

雜報

○滯米田澤幹事ノ通信

前略、日本ニ於ケル療養所施設擴張ノ目標ヲ定ムル參考資料ニモト米國ニ於ケル最近ノ狀況ヲ簡單ニ申述候
National Tuberculosis Associationニ於テ今年ノ一月一日現在トシテ印刷セル所ニ依レバ、目下北米四十八州ノ結核療養所數ハ州立郡立及ビ私立ヲ合算シテ六六〇其病牀數五四、七五五ニ有之、外ニ米國政府ノ管轄下ニ在ル病院(陸海軍其他)七五、病牀數一一、八〇七ヲ算シ候間、都合療養所數七百三十五病牀數六萬六千五百六十二ト相成候
然シテ米國ニ於ケル一年間ノ結核死亡者數ハ最近九萬九千六百五十即チ約十萬トセラレ居候間一年約十四五萬ノ結核死亡者ヲ有スル日本ニ於テ若シ完全ヲ期スレバ幾何ノ療養所施設ヲ要ムベキカモ略々推測シ得ラル、所ト存候、而シテ又全米ノ人口ヲ凡ソ一億二千萬ト見レバ米國ノ結核死亡率ガ日本ニ比シテ遙カニ少ナキ事實モ認メザルヲ得ザル所ニ御座候

昨年五月 National Tuberculosis Association ノ第十八年總會